

平成29年度第1回狭山市スポーツ推進審議会会議録

開催日時 平成29年6月27日(火)
午後7時00分から午後8時15分まで
開催場所 狭山市役所5階教育委員会室
出席者 伴好彦委員、渡邊学委員、篠塚功委員、藤澤洋子委員、諸口高男委員、
山崎康雄委員、小川真理委員、小澤まゆみ委員
欠席者 小峰正司委員、木村奈々子委員
事務局 滝嶋生涯学習部長、五十嵐スポーツ振興課長、高野主幹、須賀主査
傍聴者 なし

議 題

- (1) 狭山市スポーツ推進計画事業計画 平成28年度事業実績報告について
狭山市スポーツ推進計画事業計画に基づいて行った平成28年度の事業について、実績報告書をもとに説明をした。

質 疑

委員 施策1「市民のスポーツ活動の促進」、スポーツ教室・行事の開催回数・参加人数について、目標値25回に対して、1930名の参加とあるが、新規参加者、継続者の細かい内訳はあるのか。

事務局 具体的に、新規参加者、継続者の集計はしていない状況である。

委員 おそらく、継続の方は、特に働きかけをしなくても参加するでしょうし、本来であれば、今まで参加されなかった方に、参加いただきたい部分だと思うので、今後、参加者の数値が分かれば、良いと思う。

事務局 傾向が分かることによって、スポーツの促進につながると思うので、今後できるだけそのような取り組みができるように検討していく。

委員 狭山CITYゴルフ大会が、5月に市の主催であったと思うが、募集定員に対しての新規・継続参加者の内訳はどうなっているか。

事務局 こちらについても、毎年参加している方は多くいると思う。申し込みは先着順であり、新規者・継続者のカウントはしていないが、名簿上、昨年と比較し、確認することはできるかと思う。

委員 地区の方から、何回か応募したけれども、すべて落選したという話を伺っている。市民に広くひろめるためには、ある程度期間を設けた中で、先着順ではなく、シャッフルした中で選ばれた方がより公平ではないか。

会長 狭山市におけるゴルフ大会について、市主催、市と体育協会の共催、ゴルフ協

会主催の大会があるかと思うので、事務局、説明をお願いしたい。

事務局 ゴルフ大会については、教育委員会が主催している、狭山 CITY ゴルフ大会を5月と6月に、また、体育協会と共催で市民ゴルフ大会を10月に行っている。また、ゴルフ協会が独自で行っている大会が年に4回開催されている。狭山市教育委員会で開催している大会は、先着順であり、5月に1回、6月に1回、各130名程度募集している。市民ゴルフ大会は、霞ヶ関カンツリー倶楽部で行っており、もともとは体育協会主催であり、体育協会加盟団体の親睦を図るということで始まったものである。徐々に組み数が増え、260人の参加をいただいていた。昨年までは東京オリンピックの関係で工事を行っており、人数は約半数であったが、今年度から、若干の減少があるが、もとの人数にもどる形である。これについては、260人の参加について、もともとの経緯もあるので、100名程度は体育協会加盟団体に組み数を分け、残りの160名について、市民の方の申し込み分となっている。こちら、人気の高い大会であり、160名を抽選で行っている。

会長 市民ゴルフ大会については、昨年倍率が3倍、おととしが2倍と、競争率が高い大会である。よって、抽選会は、公開をもって皆さんの前で行っている。

委員 基本計画施策2「競技スポーツの振興」取り組み2「青少年の競技スポーツの普及」について、埼玉県体育協会において、小学校4年生を対象にトップアスリートを育てる「プラチナキッズ」という事業が行われているが、毎年多くの児童が申し込んでいる。現状として、市としても可能性を広げられる事業に取り組んでいると題目に示されているので、具体的に狭山市の申し込み人数を把握されたい。

事務局 狭山市の申し込み人数については、把握できていない状況である。県の体育協会に申し込みをして、ゴールデンエイジと呼ばれる世代の方がどのスポーツに向いているかなどを発掘しながら、将来的にはアスリートを育てていこうという事業である。県から市にリーフレットが届き、毎年小学校に配布して、個人で申し込みをしていただいている。プラチナキッズの定員が毎年30名であり、申し込んでから選考試験がある。県で定めた試験に通って、プラチナキッズのメンバーとして登録され、専門的なプログラムを受けていくというものである。昨年度は狭山市から30名の中に1名が選ばれた。専門はスケートで体育協会の表彰も受けている。全国で3位の実績がある。28年度でその年の専攻過程は終わるが、引き続き、県のプログラムにそってアスリートを目指していく状況になるかと思う。

委員 私は、プラチナキッズの第2次選考の測定委員になっている。第2次は、男女100名ずつおり、100名から15名に絞られ、プラチナキッズとして計30名が今後のプログラムを行っていくものである。子どもたちは必死にがんばっ

ている。市として、申請人数を把握ができたらと思う。

もう一点は、事業報告書4ページの障害者向けのスポーツ教室の実施について、関係部局が障害者福祉課になっているが、スポーツ推進員にも関わってくることだが、障害者の方とどういった関わり方をしていくかについて、県のスポーツ推進員をとおして研修会を重ねてきた。狭山市スポーツ推進計画にも、事業を充実させていくという文言があるので、今後、障害者福祉課が窓口となってやっていくのか、教室等になると、いずれ、スポーツ振興課も関わってくるのか伺いたい。

会 長 障害者福祉課と連携する中で、教育委員会の見解をお示しいただきたい。

部 長 市長部局と教育委員会は常々、いろいろな部分で連携をしているので、子ども福祉部とも調整をしながら情報提供をし、協力し合えるところは、協力していきたいと考えている。

委 員 前回の会議でも、市の予算が削られている中で、他の部局とタイアップしながら事業を進めていった方がよいのではないかと意見を述べた。その中で、健康づくりについて、今年度、県とタイアップしてコバトン健康マイレージという、1日1万歩を目指して歩こうという事業を行っていると思う。スポーツ振興課としては今後、どのような形で関わっていくのか。

事務局 県の指導で行っているコバトン健康マイレージについて、狭山市としては、長寿健康部が所管であり、健康づくり支援課と保険年金課が窓口となっている。申請者には万歩計を貸し出し、1日1万歩を目指して、歩いた距離によってポイントをつけ、モチベーションを上げていくというものである。スポーツ振興課でも、その情報はいただいております、普段から運動を多くの方にしていただけるように、歩ける場所を提供するなど、事業が促進できるよう取り組んでいる。

委 員 狭山市スポーツ推進計画の数値目標に「週1回以上スポーツを実施する成人の割合を50%以上」とあるので、健康づくり支援課とタイアップしたほうがよいと思う。

会 長 検討課題ということでお願いしたい。

次に、委員に伺うが、市民卓球大会について、募集方法と参加人数をお教え願いたい。

委 員 各登録団体への呼びかけや広報紙で募集を行っている。

会 長 今、公民館などでも盛んに卓球が行われており、小学生が活動しているようなので、公民館にもちらしを置いて、市民大会への参加を呼びかけることもよいのではないかと。ぜひ、卓球連盟にも協力いただき、卓球教室等がこれから市の教室に組み込まれるようお願いしたい。

委 員 中学生から、去年の日本体育大学とのバレーボール教室に参加して、指導を受けたことが、とてもよかったと聞いている。今年は別の競技で行われるのか、同

じバレーボールであれば、昨年参加した方も参加できるのか伺いたい。

会 長 部長の意見をお願いしたい。

部 長 概略は、昨年の7月に全国で39番目に日本体育大学と「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結した。内容としては、体育・スポーツの分野において、それぞれが有する教育資源等を有効活用し、市民のスポーツへの関心を高め、子どもの体力向上や市民の健康増進を図ることを目的としている。昨年は、市内中学校の女子バレーボール部員104名を集めてバレーボール教室を行い、非常に好評価をいただいた。今後の予定については検討中であるが、東京オリンピックも控えているので、若年層の人たちへ一流のプレイヤーの活動を身近で見られるような機会をつくりたいと考えている。また、桶川市も日本体育大学と協定を締結しているので、コラボレーションできればと考えている

会 長 委員に伺うが、小学生のうち、スポーツをしている子は、ほとんどがスポーツ少年団に加入しているか。小さいころからスポーツに取り組むことは大事なことと思うが、これからの取り組みについて教えていただきたい。

委 員 全体像のことは把握できていないが、スポーツをしているお子さんは、スポーツ少年団の活動以外でも、何人か集まり、大人を交えて開放体育館を利用して、バスケットなどを行っている方もいる。現在、中学校の部活動の加入は自由である。スポーツ少年団に加入していなくても、以前は、中学校に入学した時、スポーツのきっかけとして、部活動に入るという入り口があったかと思う。また、部活動も土・日曜日のどちらかになっているので、スポーツ少年団で活動していた子は、中学生になってから活動が消化不足と思っている子もいるようである。

会 長 今、委員から土・日曜日の部活動の状況を伺ったが、学校側の事情もあるかと思うが、外部講師について伺いたい。部長にお願いしたい。

部 長 今、会長から話があったように、教員の労働時間の関係もある。生徒数の多い学校は、部活動も活発であるが、生徒数の少ない学校では、野球やサッカーの部員に満たないところもある。外部講師は、30名ほどの方にご協力いただいている。

会 長 中学の部活動は、スポーツの入り口であると思うので、創意工夫して外部講師を入れていただき、学校の都合で部活動ができないことがないように行政が指導してほしい。

委 員 指導者が増えて、場が増えることは十分だが、結局、普及するには、簡単な話、楽しくなければならぬ。日本は、教育的に楽しむスポーツというのは、手を抜いて適当にするという教育がなされている。指導者を任せるにしても、競技スポーツのみで指導してしまうと、普及にはつながらないのではないかと。行政において、何か方針を伝える方法も必要だと思う。

会 長 次に小中学校の体力テストについて、全国における埼玉県の順位、埼玉県にお

ける狭山市の順位をお聞かせ願いたい。

部 長 小中学校の体力テストの結果は、47の都道府県中、埼玉県は1桁台の上位に入っており、その中で、埼玉県内で狭山市は下位であるが、全国の中では中位である。どのように体力向上に臨んでいるかは、各学校において、体力向上プランを作っており、各校でつくったプランに沿い、小学校は朝マラソンをするなどしてそれぞれ取り組んでいる。

委 員 先ほど意見が出たように、初心者の対象の教室は、初心者が増えないことには、市民に広がっていかないと思うので、初心者と継続者の申請データをお願いしたい。また、日本体育大学の方に指導していただいて、とってもいい刺激を受けたという意見があった。子どもは、一流選手の姿をみるだけで、わくわくするものである。これからもそういう機会を多く作っていただけるようお願いしたい。

議 題

(2) その他

Honda 硬式野球部が第88回都市対抗野球大会本戦に出場が決定したことについて報告。狭山市として、狭山市駅東西自由通路において横断幕を、新狭山駅北口・南口ロータリーにおいて看板を設置している旨を報告した。

会議資料

- ・狭山市スポーツ推進計画事業計画 平成28年度事業実績報告